

令和 5 年 6 月 18 日現在

機関番号：21601

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2017～2022

課題番号：17K08921

研究課題名(和文) 医学生・医療人のためのソーシャルメディア利用に関する教育プログラム開発

研究課題名(英文) Development of an educational program on the use of social media for medical students and medical professionals

研究代表者

諸井 陽子 (Moroi, Yoko)

福島県立医科大学・医学部・助手

研究者番号：20443872

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,600,000円

研究成果の概要(和文)：ソーシャルメディアの普及に伴い、医療人の倫理やプロフェッショナリズムに関わるSNS上でのモラルハザード事例が発生している。国内で発生した事例について、問題行動を区分化し、事例に基づいたSNS利用チェックリストの作成を試みた。事例の問題行動を分析すると、「医療情報の取り扱い」「守秘義務・プライバシーの保護」「プロフェッショナリズム」の3つに分類された。事例に基づいた、質問形式からなる10項目の医療人向けSNS利用のためのチェックリストを開発した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

SNSを介したモラルハザード問題は、急速な情報化社会の発展に伴って、新たに発生した問題である。事例から区分化された、医療情報の適切な取り扱いや、医療人としての守秘義務やプライバシーの尊重、およびプロフェッショナルとしての意識は、SNS上に限らず医療専門職のコミュニケーションの前提と考えられる。海外では医療人に向けたSNS利用指針が提唱されているが、国内において医療人教育に特化したソーシャルメディア利用に関する具体的な行動指針は明言されていない。事例に基づいた教育プログラム開発により、医療倫理教育への新しい観点の提唱が可能となったと考える。

研究成果の概要(英文)：With the increasing use of social media, cases of unprofessional behavior by medical professionals related to ethics and professionalism on social networking services (SNS) have occurred. We attempted to classify the problematic behaviors from the cases occurring in Japan and created a checklist for SNS use. From our analysis of the case studies, we classified the problematic behaviors into three categories: "Handling of medical information," "Confidentiality/Privacy protection," and "Professionalism". Based on the case studies, we developed a questionnaire-style 10-item checklist for SNS use by medical professionals.

研究分野：プロフェッショナリズム

キーワード：モラルハザード SNS ソーシャルメディア チェックリスト 倫理教育

## 様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19 (共通)

### 1. 研究開始当初の背景

2000 年以降、インターネット上のコミュニティであるソーシャルメディア (mixi、Twitter、Facebook、LINE 等) の普及が進んだことに伴い、若者によるソーシャルメディア上でのモラルハザード (倫理観の欠如) による問題が頻発し、医療人による不適切な行為も発生している。これらの多くは学びの場の外で発生しているため、問題の把握は困難であった。また、それらの行為は社会的な責務や倫理観に対して自覚を欠く医学生や医師が増加していること、利用者のソーシャルメディアの特性への理解の欠如等が考えられるが明らかにはなっていない。そこで、医学生を含む医療人がソーシャルメディア上でのモラルハザード問題 (倫理的、および、医療人のプロフェッショナリズムに問題があるもの) の発生に及ぼす要因を明らかにし問題の発生を防止するための教育プログラムの開発が必要であると考えた。

### 2. 研究の目的

本研究では、医学生を含む医療人が起こしうるインターネット・コミュニティ上でのモラルハザード問題の発生に及ぼす要因を明らかにするとともに、医療人の医療倫理に関する認識・解釈の程度と情報倫理行動の現状を探り、医療に関するモラルハザード問題の発生、および、医療系学生や医療専門職がインターネットを利用する際に被害者や加害者になることを未然に防ぐための教育プログラムを開発することを目的とした。

### 3. 研究の方法

私たちが行ってきた、医療系学生及び医療専門職がインターネット上で引き起こしたモラルハザード事例調査 (文献 1) から、その内容を分析し、問題行動のリストアップとカテゴリー化を実施した。事例に加え、海外の提言やガイドラインを参考に、網羅的なソーシャルメディア利用のためのチェックリストを考案し、教育活用化を試みた。

### 4. 研究成果

#### (1) モラルハザード事例の問題行動の区分化

日本国内で発生した医療系学生及び医療専門職が引き起こしたモラルハザード事例のうち、学業・業務に関する 17 件の事例について分析した。問題行動をピックアップして区分化すると以下の 3 つに分類できた。表 1 にモラルハザード事例を分析した問題行動を示す。

不必要な情報収集：担当患者の電子カルテや診療録、検査の治療の結果や画像、同意書などを個人の USB や PC、スマートフォンなどに記録することが該当する。患者の個人情報を含む電子データを自宅に持ち帰って作業したいという状況が生じることがあるが、診療情報取り扱いに関する院内ルールの遵守が求められる。また、興味本位で知人や有名人の電子カルテを閲覧することも不適切である。

医療情報の軽視：患者が特定される可能性のある個人の診療情報データをクラウドサービスにアップロードすることが該当する。学会発表や症例検討などの目的でも不適切な行為である。SNS を通じて不特定多数の人に患者の情報を発信することは医療系学生、医療専門職に関わらず厳重な処罰が科せられる。自分や自分たちが、患者個人が特定されないと判断しても想定外のところから患者に不利益がもたらされることがある。

プロフェッショナリズムの逸脱、倫理観の欠如、悪ふざけ：オンライン上の誹謗中傷やいじめ、悪ふざけなどが該当する。うまく対応できなかった患者やその家族に対する反感や怒りを発信し不特定多数の人々に共感を求めた事例や、病気や障がいによる身体的特徴の揶揄、授業で扱う人体標本や献体の撮影、悪ふざけ写真を投稿する事例もある。SNS 上ではその患者や投稿者を特定・非難・攻撃しようとするユーザーが問題を拡散し複雑化する恐れがある。

実際の事例では、不適切な情報の収集が行われた後で、その情報が SNS に投稿されるなど、3 つの区分が複雑に絡み合っていた。

表 1. 医療系学生・医療専門職が引き起こした事例に基づいたソーシャルメディア利用上のモラルハザード区分

区分	問題行動
医学・医療情報の取り扱い (不必要な情報収集)	A. 診療目的外に患者の診療録を閲覧する B. 診療目的外に患者の身体や受療状況を撮影・録音する C. 臨床実習・研修先の施設 (病院・診療所・在宅、等) で、了承なく撮影・録音する
守秘義務・プライバシー	D. 患者情報 (氏名・住所など) や診療内容をインターネット上に書き込む

一の保護 (医療情報の軽視)	E. 診療に関する情報(検査結果や画像など)をインターネット上にアップロードする F. 有名人・芸能人の受診をインターネット上に書き込む
プロフェッショナリズム (プロフェッショナリズムの逸脱、倫理観の欠如、悪ふざけ)	G. 患者の病気や障がい者の不具合さをインターネット上で笑いの対象とする H. 自らが接した患者への不満や中傷をインターネット上に書き込む I. 授業で扱う人体標本や実験動物を撮影し、インターネット上にアップロードする J. スマートフォンなどの IT ツールやデバイスを使って試験問題を不正に入手・解答する

諸井、小林、菅原、石川．医学教育 2020.51:401-404 (文献8) から抜粋

## (2) ソーシャルメディア利用のためのチェックリストの開発

(1)で区分化したモラルハザードの問題行動を踏まえ、さらに海外の SNS 利用の提言やガイドライン(文献2-7)を参考にして網羅的な医療系学生及び医療専門職のためのソーシャルメディア利用のためのチェックリストを開発した。チェックリストは、医療系学生や医療専門職が、学習や業務の過程で陥りやすい問題行動を10項目に絞り、学習者が理解しやすく、医療系学生や医療専門職の教育や研修に活用しやすい形を目指し、短文の質問文形式とした。開発したチェックリストを表2に示す。

このチェックリストは、医学教育モデル・コア・カリキュラム(令和4年度改訂版)の医学における情報科学技術の活用で引用されたほか、医療系学生の教科書として活用される「メディカルスタッフのための基礎からわかる人間関係論(南山堂)」「看護管理(ナーシング・メディカ)」をはじめ、看護学習雑誌「ブチナース」等に掲載され、本学以外での医学医療教育にも活用されている。

表2. 医療系学生と医療人のためのソーシャルメディア利用のためのチェックリスト

医学・医療情報の取り扱い	1. その医療情報(文書・写真・動画・音声)の電子データ入手は本当に必要ですか? 2. その医療情報(文書・写真・動画・音声)をインターネット投稿は本当に必要ですか?
守秘義務・プライバシーの保護	3. インターネット上の不特定多数の人々への情報提供は、患者に不利益をもたらしませんか? 4. インターネット上に情報提供することで、患者個人が特定される危険はありませんか? 5. インターネットに投稿した情報は、必ずしも消去できないことを理解していますか?
プロフェッショナリズム	6. 自分が接した患者や家族に対する反感や怒りについて、インターネット上で共感を求めていますか? 7. 患者の病状や障害者の不具合さをインターネット上でふざけたり面白がったりしていませんか? 8. 人間の尊厳や動物愛護の観点からインターネットへのアップロードは問題ではありませんか? 9. あなたのインターネット上の言動が医療専門職(プロフェッショナル)としての信頼を損ねませんか? 10. インターネット上で倫理的に問題のある投稿を発見した場合、勇気をもって適切な対応をとれますか?

諸井、小林、菅原、石川．医学教育 2020.51:401-404 (文献8) から抜粋

## (3) 教育活用化

第54回日本医学教育学会大会の公開シンポジウムに採択され、本研究に関する SNS モラルハザードについて討論する企画を設けることができ、本研究の研究者に加え計4名のシンポジストがテーマに関する講演を実施し、聴衆からの質問を交えて討論を行った。

### 【シンポジウム】

「医療系学生・医療専門職がインターネット・SNS でトラブルに陥らないために」

演者1 「医療系学生・医療系専門職が引き起こした SNS モラルハザード事例」

諸井 陽子(福島県立医科大学 医療人育成・支援センター)

演者2 「事例に基づいた医療人のためのインターネット・SNS 利用チェックリスト」

石川 和信(福島学院大学, 舟山病院)

演者3 「医療プロフェッショナリズムとソーシャルメディア～医師養成と多職種協同の立場から」

孫 大輔(鳥取大学医学部地域医療学講)

演者4 「インターネット・SNS の上手な活用 Tips ～看護師養成の立場から」

瀬戸山 陽子(東京医科大学)

本研究に先行して実施した収集事例(文献1)に、最近の事例を追加し、「医療系学生・医療専門職が引き起こした SNS モラルハザード事例」として事例を具体的に紹介し参加者間で共有し、次に、「事例に基づいた医療人のためのインターネット・SNS 利用チェックリスト」として、表1及び2を活用して紹介した。その後、医師養成、看護師養成の立場から、医療プロフェッショナリズムと、SNS の上手な活用法について論じた。このシンポジウムの内容は、医学新聞「Medical Tribune」にも取り上げられた

また、収集事例に関する論文「医療系学生・医療専門職が起こしたインターネット上のモラルハザード事例, 医学教育 . 2016 , 47 , 185-187」(文献1)は、発表後6年を経過するも、国立研究開発法人科学技術振興機構が運営する電子ジャーナルプラットフォームである J-STAGE の月間アクセス数ランキングに長期間入っており、2022 年に「医学教育」にて企画された「J-STAGE ダウンロード数年間トップ20(2021年9月~2022年8月)」の総合部門第1位・掲示板部門第1位に、本研究の成果である「モラルハザード事例調査に基づく医療系学生と医療人のためのソーシャルメディアチェックリストの開発, 医学教育 . 2020 , 51 , 401 - 404」(文献8)は、短報部門第3位・総合部門49位に輝いた。

オンラインプロフェッショナリズム教育の必要性に高い関心が寄せられ、研究成果は、日本国内の医療人教育に活用されている。

#### 参考文献

- 1) 諸井陽子、小林元、菅原亜紀子、石川和信：医療系学生・医療専門職が起こしたインターネット上のモラルハザード事例, 医学教育 . 2016 , 47 , 185-187.
- 2) WMA (世界医師会). WMA Statement on the Professional and Ethical use of social Media  
URL: <https://www.wma.net/policies-post/wma-statement-on-the-professional-and-ethical-use-of-social-media/> (accessed 15 June 2023)
- 3) AMA (アメリカ医師会). Professionalism in the Use of Social Media  
URL: <https://www.ama-assn.org/delivering-care/ethics/professionalism-use-social-media> (accessed 15 June 2023)
- 4) BMA (イギリス医師会). Social media guidance for doctors  
URL: <https://www.bma.org.uk/advice/employment/ethics/social-media-guidance-for-doctors> (accessed 15 June 2023)
- 5) 日本医師会 . ソーシャルメディアに関する WMA 声明  
URL: [https://www.med.or.jp/jma/jma\\_infoactivity/jma\\_activity/2011wma/2011\\_02j.pdf](https://www.med.or.jp/jma/jma_infoactivity/jma_activity/2011wma/2011_02j.pdf) (accessed 15 June 2023)
- 6) 公益財団法人日本看護協会 . 看護師とソーシャルメディア (ICN ; 国際看護師協会)  
URL: <https://www.nurse.or.jp/nursing/international/icn/document/policy/> (accessed 15 June 2023)
- 7) 一般社団法人日本解剖学会、一般社団法人日本病理学会、特定非営利活動法人日本法医学会 . 人体および人体標本を用いた医学・歯学の教育と研究における倫理的問題に関する提言
- 8) 諸井陽子、小林元、菅原亜紀子、石川和信：モラルハザード事例調査に基づく医療系学生と医療人のためのソーシャルメディアチェックリストの開発, 医学教育 . 2020 , 51 , 401 - 404.

## 5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計5件（うち査読付論文 2件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 諸井陽子、小林元、菅原亜紀子、石川和信	4. 巻 51
2. 論文標題 モラルハザード事例調査に基づく医療系学生と医療人のためのソーシャルメディア利用チェックリストの開発	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 医学教育	6. 最初と最後の頁 401-404
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 石川和信、諸井陽子	4. 巻 3399
2. 論文標題 医療系学生・医療専門職がSNS関連のトラブルに陥らないために	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 週刊医学会新聞	6. 最初と最後の頁 3
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 石川和信	4. 巻 582
2. 論文標題 医療人のオンライン・プロフェッショナリズム インターネット・SNSと看護職	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 看護のチカラ	6. 最初と最後の頁 4-11
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 諸井陽子、石川和信	4. 巻 53
2. 論文標題 掲示板部門トップ20 第1位「医療系学生・医療専門職が起こしたインターネット上のモラルハザード事例」	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 医学教育	6. 最初と最後の頁 554-555
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計14件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 1件）

1. 発表者名 Moroi Y, Kobayashi G, Sugawara A, Ishikawa K.
2. 発表標題 Implementation of medical professional education utilizing social networking service with an evidence-based checklist.
3. 学会等名 Association for Medical Education in Europe (AMEE) 2017 (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 諸井陽子, 小林 元, 菅原亜紀子, 石川和信.
2. 発表標題 ソーシャルメディアを介した医療人モラルハザード事例と医学生の潜在的リスク感覚は類似した.
3. 学会等名 第49回日本医学教育学会大会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 諸井陽子, 小林 元, 菅原亜紀子, 石川和信.
2. 発表標題 モラルハザード事例に基づいた医療人ソーシャルメディア利用チェックリスト.
3. 学会等名 第9回東北シミュレーション医学教育研究会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 諸井陽子
2. 発表標題 医療人を対象としたソーシャルメディア利用チェックリスト.
3. 学会等名 第43回総合科学研究会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 諸井陽子
2. 発表標題 医療系学生・医療系専門職が引き起こしたSNSモラルハザード事例
3. 学会等名 第54回医学教育学会大会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 石川和信
2. 発表標題 事例に基づいた医療人のためのインターネット・SNS利用チェックリスト
3. 学会等名 第54回医学教育学会大会
4. 発表年 2022年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	石川 和信  (Ishikawa Kazunobu)  (80222959)	福島学院大学・医学部・特任教授   (31605)	
研究分担者	小林 元  (Kobayashi Gen)  (20423791)	国際医療福祉大学・医学部・講師   (32206)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8 . 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------